

## トヨタ車体、会社創立70周年にダカールラリー2015でワン・ツーフィニッシュ！ 市販車部門を完全制覇し、2連覇を果たす！

トヨタ車体株式会社（本社：愛知県刈谷市 取締役社長 <sup>いわせたかひろ</sup> 岩瀬隆広 以下、トヨタ車体）のラリーチームであるTeam Land Cruiser TOYOTA AUTO BODY（チームランドクルーザー・トヨタオートボデー 以下、TLC）は、2015年1月3日から1月17日に開催された「ダカールラリー2015 アルゼンチン・ポリビア・チリ」に、「トヨタランドクルーザー200」をベースに開発・製作したダカールラリー仕様車2台で参戦し、ガソリン車・ディーゼル車を含めた市販車部門において、すべてのステージで首位を独占。その結果、1号車が優勝、2号車も準優勝となり、2年連続となる市販車部門ワン・ツーフィニッシュを達成しました。

トヨタ車体は今年、会社創立70周年を迎え、この記念すべき年の初めに、皆様に明るい話題をお届けすることができました。

TLCの優勝に向けて、応援していただいた皆様、ありがとうございました。

ドライバー/ナビゲーター		市販車部門*1 順位	ディーゼルクラス*2 順位	総合順位
1号車	<sup>みつはし じゅん</sup> 三橋 淳 / ゲネック・アラン	1位	1位	29位
2号車	ジボン・ニコラ / <sup>みうら あきら</sup> 三浦 昂*3	2位	2位	30位

\*1 市販車部門（ガソリンクラスとディーゼルクラスをあわせたカテゴリー）

\*2 TLCは、市販車部門ディーゼルクラスに参戦

\*3 トヨタ車体社員（総務部広報室）ナビゲーター

### 【今大会戦況】

今大会の競技区間は約4,600kmと2014年大会と比べて約1,000km短縮されたコース設定でしたが、コースの難易度は更に増し、最高レベルの走破性、耐久性が求められるラリーとなりました。

アルゼンチンのコースでは、標高4,800mのアンデス山脈をはじめとする山岳地帯とその麓の平原を舞台とし、砂利や岩など、凹凸の激しい硬い路面でありましたが、ランドクルーザー200の強靱かつ柔軟な足まわりと機動力が、これらの凹凸をものともせず走り続けました。チリでは、世界一乾燥しているといわれるアタカマ砂漠を舞台とし、砂煙が舞う砂丘群を高い走破性で突き進みました。ポリビアでは、南米大会初となるメカニックのサポート・整備が禁止されるマラソンステージ(\*4)が盛り込まれた非常に難しいコース設定となりました。このように過酷なコースでありましたが、ランドクルーザー200の力とドライバー・ナビゲーターをはじめとするTLCメンバーの経験やノウハウ、チーム力により全13ステージを走破し、市販車部門2年連続の優勝・準優勝を果たしました。

\*4 キャンプ地でメカニックのサポートが受けられず、ドライバー・ナビゲーターが車載の部品と工具のみで自ら車両の整備を実施するステージ

### 【バイオディーゼル燃料（以下、BDF\*5）での参戦】

2012年大会以来、今大会においても2台のランドクルーザー200にBDFを100%使用。NRJ部門（環境に配慮した代替エネルギーを使用したクルマの部門）において、5年連続の優勝を果たしました。

\*5 当社の活動に賛同して下さった近隣地域の方々、小学生から大学生、TLCスポンサーならびに社員から提供頂いた廃食油を原料とし精製した燃料

### 【ラリーで得られた成果を市販車へ】

世界一過酷なコースを走行することで得られたデータを車両開発にしっかりとフィードバックし、ランドクルーザー200の持つ走破性や安全性、信頼性という価値をより一層高めて、世界中のお客様に必要とされ、愛されるクルマをめざし続けます。

## 【コメント】

## ◆トヨタ車体 取締役社長 岩瀬 隆広

2連覇をワン・ツーフィニッシュで飾れて本当に良かったです。会社創立 70 周年の記念すべき年の初めに、皆様に明るい話題を届けることができ、とても嬉しく思います。世界で最も過酷なラリーと言われるダカールラリーで 2 年続けて勝てたことにより、ランドクルーザー 200 の走破性、安全性、信頼性を実証することができました。今後もラリーで得られた成果を「もっといいランドクルーザーづくり」に生かして、世界中のお客様に喜んで頂けるクルマづくりを進めて参ります。

応援して頂いた皆様、ならびにスポンサーや関係者の皆様の温かいご支援にあらためて御礼申し上げます。ご声援ありがとうございました。

## (チームメンバーのコメント)

## ◆チーム代表 林 正敏 (トヨタ車体 執行役員)

私どもの造っているランドクルーザーで、社員参加の手作りチームが、2 年連続、市販車部門で優勝できたことは、我々がやってきたクルマづくり、チームづくりが間違いなかったという結果だと思います。今年の TLC は、監督はじめメカニックなど新人が多く、当初は不安視する声もありましたが、チームワークの良さを発揮して、栄冠を掴んでくれました。これも皆様のご声援のおかげです。ありがとうございました。

## ◆チーム監督 角谷 裕司 (トヨタ車体 総務部広報室)

初監督で優勝を成し遂げることができ、本当にうれしく思う反面、安堵の思いもあります。この優勝は、新前監督を支えてくれたチームメンバーの努力の賜物であり、そして何よりもいつも暖かく応援し支えてくださっているスポンサーやファンの皆様、会社の仲間のおかげです。プレッシャーに負けそうになった時もありましたが、皆様のご声援が力となりました。1 年間頑張ってきて本当に良かったです。

## ◆市販車部門優勝 1号車ドライバー 三橋 淳

今回はトラブルが多く、2 号車がいなければ勝つことは出来なかった。今回の勝利は TLC のチームワークによるものという気持ちが強いです。改めてチームの一員として市販車部門 5 勝目が獲れたことを嬉しく思います。

## ◆市販車部門優勝 1号車ナビゲーター ゲネック・アラン

2 年連続の優勝をととてもうれしく思うとともに、今はほっとした気持ちです。三橋ドライバー、メカニックと力を合わせることで困難に立ち向かい、乗り越えることができました。この優勝は、チームのサポートと多くの方々からのご声援による後押しがあったからこそだと感じています。ありがとうございました。



市販車部門優勝を達成した TLC1 号車 (三橋/ゲネック組)



ゴールポディウムで優勝を喜ぶ TLC

## 【参考1：参加台数と定義】

	部 門	クラス	参加台数	完走台数	完走率
4 輪	市販車 量産車にロールバー・大容量燃料タンクなどの「安全に走る」ための装備を追加した車。主要部品の交換が禁止されている。	ガソリン	2	1	50%
		ディーゼル	10	5	50%
			12	6	50%
	改造車		125	61	49%
	小 計		137	67	49%
	2 輪		161	79	49%
	クアッド*6		45	18	40%
	カミオン (トラック)		63	43	68%
	合 計		406	207	51%

\*6 4輪バギー

## 【参考2：過去の成績】

開催年	1995-2004	2005-07	2008	2009-11	2012	2013	2014	2015
使用 車両	ランドクルーザー-80(1995-1998) ランドクルーザー-100(1999-2004)	ランドクルーザー 100		ランドクルーザー-200				
成績	市販車ディーゼルクラス 優勝7回	優勝*8	大会中止	優勝*8	2位	2位	優勝	優勝
備考	アラコとして参戦 *7	2005年大会よりトヨタ車体として参戦						

\*7 2004年10月にアラコ(株)車両部門がトヨタ車体と事業統合

\*8 ガソリンクラスを含む市販車部門で6連覇達成